

第47期 報告書

平成25年4月1日～平成26年3月31日



宇奈月国際ホテル ホテルエントランス

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

平成25年度の事業概況についてご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、アベノミクスの基本方針である「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」の効果により、国内需要が堅調に推移し、生産が緩やかな増加基調にある中で、雇用・所得環境も改善しており、景気回復が続いています。

観光業界におきましては、国内旅行は、格安航空会社の路線増加、東京ディズニーリゾート30周年および東京スカイツリーの人気による首都圏観光の賑わいなどにより前年を上回りました。海外旅行は、東南アジア方面は増加しましたが、中国・韓国が国際関係の影響で敬遠され、総数では減少となりました。一方、訪日外客数は、プロモーション効果、円高是正による旅行費用の割安感、東南アジア諸国の査証緩和が追い風となり、過去最高の1036万人になるなど、総旅行人数の伸びが見られました。

このような中、当期は、立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、4月10日に弥陀ヶ原ホテルが、そして4月16日にホテル立山が営業を再開し、弥陀ヶ原ホテルは11月6日まで、ホテル立山は11月30日まで営業いたしました。

当期の営業経過におきまして、ホテル立山と弥陀ヶ原ホテルでは、シーズンを通して宿泊・食堂・売店とも概ね好調に推移しました。特にホテル立山の食堂収入におきましては、国内団体が減少したものの、4月～7月までの訪日団体が大幅に増加し、増収の大きな要因となりました。

その結果、ホテル立山は、宿泊人員が、33,806人(対前年105%)となり、宿泊収入は対前年106%、食堂収入は対前年126%、売店収入は対前年105%、収入合計では対前年109%となりました。

また、弥陀ヶ原ホテルは、宿泊人員が15,972人(対前年102%)となり、宿泊収入は対前年105%、食堂収入は対前年101%、売店収入は対前年101%、収入合計では対前年104%となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、春先は黒部峡谷トロッコ電車の営業再開の遅れにより影響を受けましたが、個人客・企画団体をうまく取り込むことができ、宿泊人員を大きく伸ばすことができました。しかしながら、他の旅館との価格競争もあり、収入につきましては微増になりました。

これにより、宿泊人員は26,979人(対前年110%)となり、宿泊収入は対前年104%、売店等を加えた収入合計では、対前年103%となりました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山収入7億22百万円(対前年106%)、弥陀ヶ原ホテル収入3億54百万円(対前年104%)、宇奈月国際ホテル収入4億47百万円(対前年103%)、食堂飲食及び物品販売収入10億31百万円(対前年111%)となり、これにビル賃貸収入1億76百万円(対前年100%)を加えた売上高合計は27億32百万円(対前年107%)となりました。さらに営業外収益14百万円を加えた収益合計は27億46百万円(対前年107%)となった次第であります。

次に営業費につきましては、経営全般にわたる効率化に努めましたが、過去3年間の設備投資や物品購入抑制の反動もあり、営業外費用を加えた費用合計は27億24百万円(対前年106%)となりました。

以上により、当期の経常利益は22百万円となり、さらに特別損失、法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を差し引いた当期純利益は14百万円を計上することとなりました。

ホテル立山宿泊営業成績表（平成25年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	229	97
宿 泊 人 員	33,806	105
一日平均宿泊者数	148	108
営 業 収 入	722,150	106
宿 泊 収 入	719,710	106
雑 収 入	2,440	118
一日平均収入	3,153	108
客 室 数	85	100
延 使 用 客 室 数	14,824	106
客 室 回 転 率	76	109
宿 泊 定 員	265	100
宿 泊 効 率	56	108

（備考）営業期間(当期)：平成25年4月16日～平成25年11月30日(宿泊日数228日)

営業期間(前期)：平成24年4月10日～平成24年11月30日(宿泊日数234日)

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（平成25年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	229	97
室 堂 到 達 人 員	747,906	106
営 業 収 入	1,031,931	111
食 堂 収 入	346,006	126
喫 茶 収 入	110,521	109
売 店 収 入	567,818	105
雑 収 入	7,584	106
一日平均収入	4,506	114
営業収入/室堂到達人員	1,380	105

（備考）営業期間(当期)：平成25年4月16日～平成25年11月30日

営業期間(前期)：平成24年4月10日～平成24年11月30日

弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成25年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	211	100
宿 泊 人 員	15,972	102
一日平均宿泊者数	76	103
営 業 収 入	354,044	104
宿 泊 収 入	286,927	105
雑 収 入	765	121
食 堂 収 入	36,905	101
売 店 収 入	29,445	101
一日平均収入	1,677	104
客 室 数	52	100
延 使 用 客 室 数	7,027	101
客 室 回 転 率	64	101
宿 泊 定 員	176	100
宿 泊 効 率	43	102

（備考）営業期間(当期)：平成25年4月10日～平成25年11月6日(宿泊日数210日)

営業期間(前期)：平成24年4月10日～平成24年11月6日(宿泊日数210日)

宇奈月国際ホテル営業成績表（平成25年度）

項 目	実 績	前年比%
営 業 日 数	365	100
宿 泊 人 員	26,979	110
一日平均宿泊者数	74	110
営 業 収 入	447,409	103
宿 泊 収 入	357,003	104
追加飲食収入	31,013	103
施設利用収入	7,696	89
日帰り収入	12,383	81
売 店 収 入	35,163	107
雑 収 入	4,147	100
一 日 平 均 収 入	1,225	103
客 室 数	64	100
延 使 用 客 室 数	10,837	114
客 室 回 転 率	47	114
宿 泊 定 員	304	100
宿 泊 効 率	24	110

（備考）営業期間(当期)：平成25年4月1日～平成26年3月31日

営業期間(前期)：平成24年4月1日～平成25年3月31日

財産および損益の状況の推移

区 分	第 4 4 期 (平成22年度)	第 4 5 期 (平成23年度)	第 4 6 期 (平成24年度)	第 4 7 期(当期) (平成25年度)
売 上 高 (千円)	2,679,582	2,368,838	2,559,870	2,732,003
当期純利益(損失) (千円)	△60,931	△264,443	11,425	14,355
1株当たり当期純利益(損失)	△67円70銭	△293円82銭	12円69銭	15円95銭
総 資 産 (千円)	1,913,541	1,662,328	1,590,851	1,671,313

平成26年度の取り組み

観光業界では、価格競争と観光地間競争により、引き続き厳しい経営環境が予想されます。その中で、効率的な事業運営と収益の確保に努め、経営基盤の安定化をはかってまいります。

1 営業施策

平成27年春に北陸新幹線が開業しますが、JR東日本・JR西日本との共同企画商品を設定するなど、本年は、新幹線開業以降の誘客促進に繋げるための基盤を築く年と捉えております。

近年、ホテル三館とも、海外からのお客様が順調に伸びてきております。そこで、海外客向けの旅行サイトと新たに契約を結ぶことで、利便性の向上と利用促進に努めてまいります。きめ細やかな情報の発信、適時適切な商品の提供、予約システムの利便性を追求し、安定した顧客の獲得に結びつけてまいります。

これまでも好評をいただいております「雪の大谷散策」や「雷鳥ウォッチング」、「星空観察会」などのイベント・アクティビティーについても、引き続きホテル三館それぞれの特徴を生かしながら企画の充実に努めてまいります。

また、レストランにつきましては、訪日団体客の増加により、立山黒部アルペンルート内の昼食場所が不足している現状を鑑み、本年度より、特に混雑する「雪の大谷」時期限定で大観峰駅2階において訪日団体食専用レストランの営業を始めました。レストラン立山と合わせ、団体受け入れ数の増加及び個人客の取り込みにより、待ち時間緩和と増販に繋げてまいります。

2 顧客満足度の向上、宿泊・食品の安全確保

基本的な接客姿勢の徹底をはかるとともに、各館の特徴を踏まえたサービスの向上を通じて、顧客満足度の向上を図り、リピーターの確保に努めてまいります。

また、施設設備・食品の安全には今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、および食品の衛生管理と仕入食材の品質管理を徹底し、お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう努めてまいります。

3 自然環境の保全

平成26年度の営業再開は、関係機関のご協力ご配慮を得て、前年同様、4月10日に弥陀ヶ原ホテルが営業再開し、4月16日にホテル立山が営業を再開いたしました。営業再開にあたっては、これまで同様、早春の立山一帯における旅客の安全と自然環境保全に対する理解の周知徹底を行い、万全を期してまいりました。

また、環境に配慮した施設設備の維持更新、ごみ処理対策の徹底等、引き続き、立山の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

今後とも自然公園法の目的に添い、「自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらえるよう」観光と環境保全の調和を図り、関係機関と連携して立山黒部の大自然を広く紹介してまいります。

これからも、佐伯初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築に全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成26年3月31日現在)

		(単位: 百万円)	
科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	450	流動負債	145
現金及び預金	354	支払手形	23
売掛金	9	買掛金	17
未収金	5	未払金	38
商品	2	未払費用	7
貯蔵品	50	未払法人税等	6
前払金	6	未払消費税等	7
繰延税金資産	20	前受金	1
その他	0	預り金	3
固定資産	1,220	賞与引当金	38
有形固定資産	1,016	固定負債	445
建物	536	退職給付引当金	438
建物附属設備	176	環境対策引当金	4
構築物	74	長期未払金	2
機械及び装置	18	負債合計	591
車両及び運搬具	10	(純資産の部)	
器具及び備品	62	株主資本	1,130
土地	119	資本金	900
建設仮勘定	19	利益剰余金	230
無形固定資産	8	その他利益剰余金	230
ソフトウェア	7	繰越利益剰余金	230
電話加入権	1	評価・換算差額等	△ 50
投資その他の資産	195	その他有価証券評価差額金	△ 50
投資有価証券	126	純資産合計	1,079
関係会社株式	35	負債・純資産合計	1,671
その他	33		
資産合計	1,671		

損益計算書の要旨

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

		(単位: 百万円)	
科目	金額	科目	金額
売上高	2,732		
売上原価	756		
売上総利益	1,975		
販売費及び一般管理費	1,968		
営業利益	7		
営業外収益	14		
営業外費用	0		
経常利益	22		
特別損失	2		
税引前当期純利益	19		
法人税住民税及び事業税	5		
法人税等調整額	0		
当期純利益	14		

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

株主資本等変動計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位: 百万円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	
		その他 利益剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	900	216	216	1,116	△55	1,060
当期変動額						
当期純利益		14	14	14		14
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					5	5
当期変動額合計	-	14	14	14	5	19
当期末残高	900	230	230	1,130	△50	1,079

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員 (平成26年3月31日現在)

●設立年月日
昭和42年12月24日

●資本金
9億円

●発行済株式総数
900,000株

●株主数
2名 立山黒部貫光株式会社
富山地方鉄道株式会社

●役員

代表取締役社長

専務取締役

常務取締役

常務取締役

取締役

取締役

取締役

取締役

監査役

監査役

総務部長

経理部長

ホテル営業部長

佐伯 博

佐川 栄

永崎泰雄

新森雅夫

桑名博勝

中川 修

石野一美

見角 要

高平 亮

稲田祐治

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併 （存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託

ホテル3館のご案内

立山黒部アルペンルート



ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<http://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>



弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峯寺弥陀ヶ原

☎ (076) 442-2222 FAX (076) 442-2242

<http://midagahara.alpen-route.co.jp/>

宇 奈 月 温 泉



黒部峡谷宇奈月温泉 宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26

☎ (0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808

<http://unazukikokusai.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 432-9056